



3学期は0学期

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

2026年は、^{うま}午年ですね。午年の中でも今年は丙午(ひのえうま)と言われ、丙午生まれの女性にまつわる迷信から60年前の丙午年には出生数が前年より25%も下がったと言われています。今の時代、そういう迷信も随分薄れたとは思いますが、近年生まれてくる子どもの数は当時と比べて半分以下なので、今年はそうならなければいいのになあと思います。

もっとも午年自体は、その語呂合わせから「うまくいく」縁起の良い年とされており、馬が駆ける前向きなイメージから、前進や成功といった積極的な年になるとと言われています。今年一年の皆さんの活躍をお祈りしています。

毎年のことですが、学校では、一年の始まりは、一年間の終わりの始まりでもあります。今日から始まる3学期は、学校にとっては、いよいよ締めくくりの時期となります。それと同時に、3学期は、4月から始まる次の学年に向けての準備の期間でもあります。ですから、3学期は、次の学年の1学期を前にした0(ゼロ)学期とも言われることがあります。

1年生は、入学以来、たくさんのことができるようになりました。そして、3学期は2年生になるために、次の1年生を迎える準備をしていきます。中身は違えども同じように2年生は3年生に、3年生は4年生になるための準備をします。4年生は、高学年になるための準備が必要ですし、5年生は、最高学年になるための準備が必要です。4月になってから1年かけて最高学年らしくなっていっては手遅れですからね。そして、6年生は、学校 자체が変わります。これからの中学校という小学校生活を終える取り組みは、言い換えると、中学校という新しい世界への一歩を踏み出すための準備なのです。

それが、この3学期が、次の学年の0学期だと言われる^{ゆえん}所以です。植物が、春になったら芽を出し、やがて大きな花を咲かせて実をつけられるように、芽を出す前に、見えない土の中でしっかりと根を張るのと同じです。

では、どのような準備をすればよいのでしょうか。一つは、「学習」です。当たり前のことですが、学年が上がるにつれて学習内容は難しくなります。ですから、新しい学年になる前に、この一年間の学びをしっかり身に付けておくことが必要なのです。今からでも遅くはありません。毎日の学習をよそかにせず、こつこつ取り組んでほしいと思います。

そして、もう一つは、「気持ち」です。自分が歩んできたこの一年



間を振り返り、成長してきたという実感が、次の成長の糧になるのです。学校生活を楽しみ、友達と仲良くし、やりたいことに取り組み、約束やきまりを守れたと自信をもてるような毎日を過ごすことが、次の学年につながる準備になると思います。

3学期は、一年で一番短いこともあり、学年末の慌ただしさが拍車をかけて、まるでジェットコースターのように日々が過ぎていくでしょう。しかし、その分ラストスパートを走り切った後の爽快感は格別なはずです。ぜひ、子どもたちには、この3学期を「やりきった!」と思えるまとめの学期にしてほしいと願っています。

タダではありません

このところよく耳にするのが、いろいろなものの値上げです。政府も物価高対策を最重要課題として取り組もうとしていることがニュースで報じられていますが、その物価高は、学校においても無縁ではありません。

児童が学校で教育活動をするために必要な物を購入するお金は、大きく分けて、大阪市の予算から学校へ割り当てられる「校費」と、教材など児童個人の持ち物を購入するために保護者からお預かりする「児童費」の二つがあります。(詳しく分けるともっと種類があります。)もちろん、どちらのお金もムダのないように学校全体や各学年で検討しながら、必要不可欠なものを購入するようにしています。そして、物品を購入する際には、複数の業者から見積をとって、少しでも安いところから買うようにしています。ところが、この一年間で、学校で扱う様々な物の値段がものすごく上がっています。だからと言って、値上げに合わせて配付予算が急に増えるわけではありませんし、買えないからやりませんという訳にもいかないので、同等のものを探したり、予算を流用したりしながら、教育活動の維持を図っています。もちろん、これまで続けてきたからという惰性の理由ではなく、教育的価値を吟味することも忘れてはいません。^だ
^{せい}

そうした努力や苦労の末に、子どもたちが手にする教材や教具ですが、目の前でお金のやり取りがない分だけ、タダで配られていると勘違いしてしまっている子もいるのではないかと感じる事があります。教室で使うチョーク1本ですら、^{もと}本をただせばお家の方や学園の先生方が働いて納められた税金で購入したことを説明すると、驚く子もいます。

これからも物価の上昇は続くと予想されています。学校でも、徴収金の引き上げをしたり、価格上昇の著しい物品について、変更や取り止めの検討をしたりする必要が出てくるかも知れません。ですから、せめて子どもたちには、学校で使っているものはタダではなく、お家や学園、学校の職員の方々が用意してくださっているということを理解して、無駄なく大切に使ってほしいと思っています。

